

平泉の地に伝わる「弁慶」の伝承と逸品



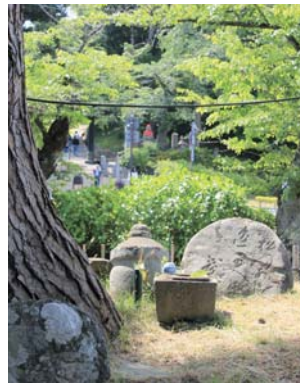
弁慶と義経の木像

弁慶堂に安置されている弁慶と義経の木像。薙刀を手に、七つ道具を背負って立往生する弁慶像が見れる。



弁慶自作之像

弁慶堂に安置されている弁慶自身が三日三晩かけて彫りあげたと言われている。弁慶像が見れる。



弁慶の墓と弁慶松

中尊寺の月見坂の登り口にある弁慶の墓。横には、寄り添うように「弁慶松」と呼ばれる大木が生えている。



辨慶力餅

1915年から続く老舗の菓子店「吉野屋」を代表するお菓子。平泉の名物として愛され続けている逸品。

第2章

文化

競技大会のルーツとなった
弁慶の歴史と餅食文化を
ひも解きます。

弁慶にまつわる場所として有名な中尊寺月見坂の中腹にある弁慶堂です。弁慶堂は1827年の建立で、ご本尊は勝軍地蔵菩薩。古くは愛宕堂と称されていましたが、義経と弁慶の木像を安置することから、明治以降は弁慶堂と呼ばれています。堂内には、かつては国宝の「金銅孔雀文磬などが所蔵されていました。

中尊寺弁慶堂

弁慶と当町の縁は深く、藤原泰衡の軍勢に攻められ、全身に矢を受けながらも仁王立ちのまま往生したという弁慶最期の地として知られています。

源義経の家来として有名な武蔵坊弁慶。「母の胎内に18カ月いて、生まれたときにはすでに2、3歳の体つきで、肩まで黒髪が伸び、歯が生えそろっていた」「三井寺の梵鐘を奪い、一人で比叡山の山上まで引きずり上げた」など、弁慶には今なお多くの伝説が語り継がれています。鎌倉時代の資料である「吾妻鏡」に登場することから、弁慶は実在の人物であり、顔や容姿などには諸説ありますが、豪勇な人物だったと言われているのが通例です。

弁慶最期の地として有名



上／現在も正月や節句などの年中行事では餅をつく習慣が残っている

左／納豆餅やあんこ餅は一関・平泉地域の餅料理では定番メニュー

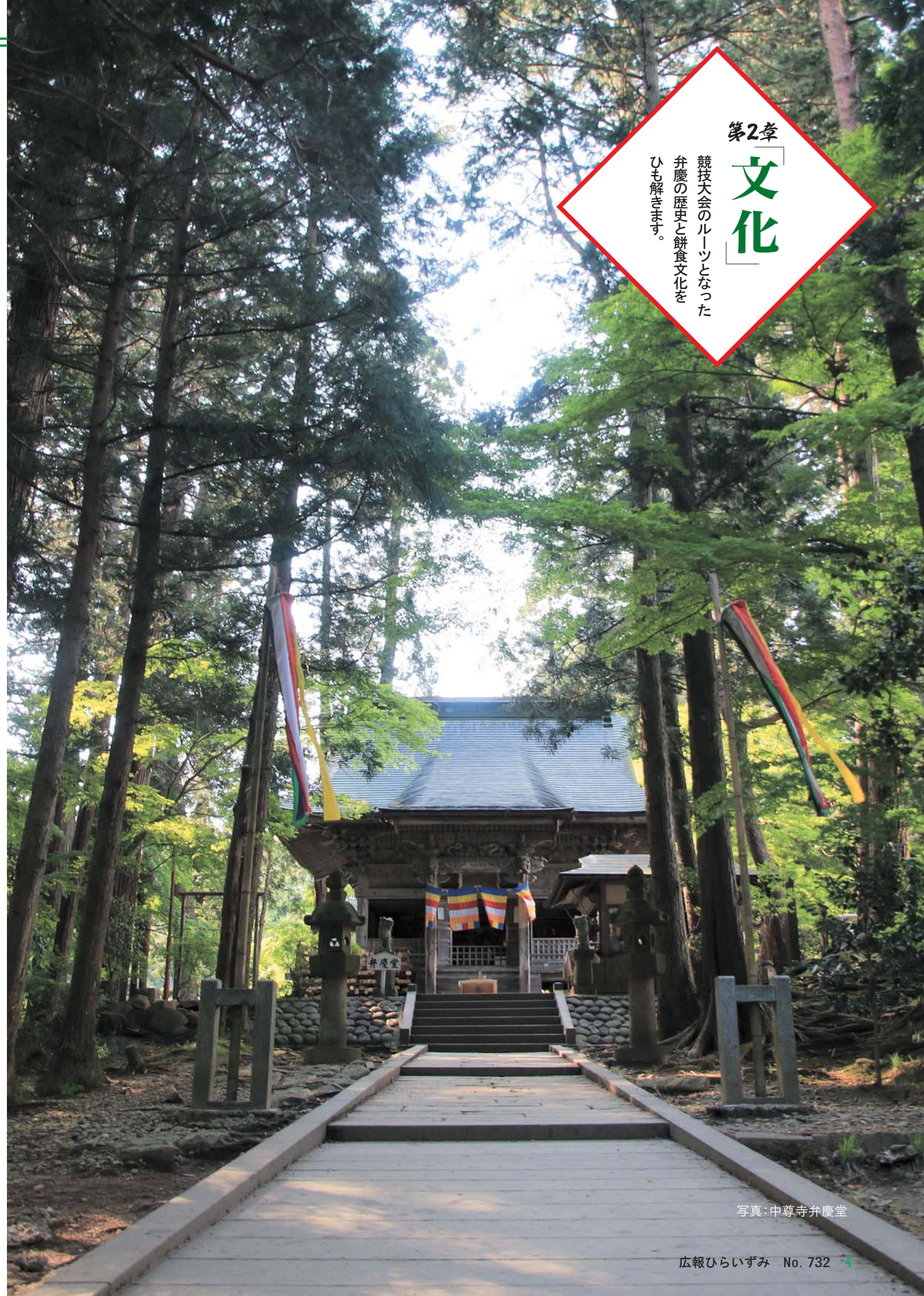
餅料理の多さでは全国一を誇る一関・平泉地域。一関・平泉地域で餅食文化が始まったのは、約400年前の藩政時代、伊達藩が無病息災を祈って毎月神仏に餅を供える習わしを推奨したことから始まりました。最高のもてなし料理として受け継がれる「もち本膳をはじめ、餅料理は、正月や桃の節句、端午の節句から冠婚葬祭や季節の区切り、祝い事などあらゆる機会に食され、その数は年間60日にも及びます。

一関・平泉地域の餅食文化

餅料理には、先人たちの知恵と工夫が多く詰まっております。世界でもここにしかない貴重な食文化として、現代の私たちに受け継がれています。

弁慶と餅文化の融合

弁慶と餅。その文化・歴史が根付いている当町だからこそ、弁慶力餅競技が誕生し、多くの人たちを魅了する大会にまで成長することができたのです。



写真：中尊寺弁慶堂